

* 弥生時代の遺跡 *

- 平成13年 5月26日(土)～5月31日(木)、6月12日(火)～7月1日(日)
- 午前9:00～午後5:00 月曜・第3木曜日は休館
- 武雄市図書館・歴史資料館 企画展示室
- 入場無料

今回のテーマ展示は、シリーズ「武雄の歴史」の第1回目として、武雄平野が開発された最初の時代である弥生時代にスポットをあて、これまでに発掘調査で出土した遺物を遺跡ごとに展示しました。

弥生時代は、今から2300年から1700年位前の時代で、前期・中期・後期に区分されています。中国大陸から稲作や青銅器・鉄器などが伝来しました。人々は低湿地に定住し、ムラができ、やがてクニへと発展、富が蓄積され、身分制度ができました。

武雄地方においても前期から人々が生活し、稲作農耕を開始したことがわかっています。中期には、青銅器や鉄器を所有し、後期にはクニとしての形態が整っていたと考えられます。卑弥呼の時代に思いを馳せ、古代のロマンを感じていただければ幸いです。



■小楠遺跡 111 街区B 調査区全景
弥生時代前期の環濠の一部が見えます。小楠遺跡は、前期から後期まで営まれ、住居跡や甕棺墓等が調査されました。



■梶原遺跡 123 街区 竈穴住居跡
円形をした弥生時代中期の住居跡が発見されています。径約5.4mで、5本柱と考えられています。



■玉江遺跡出土銅鉾 (全長80.4 cm)
中広形の銅鉾で、出土状況から祭祀に使われ、埋納されていたと推定されています。



■納手遺跡出土小型仿製鏡
内行花文帯 (9弧) をもつ形式で、銅質はよくありません。面径7.5 cm



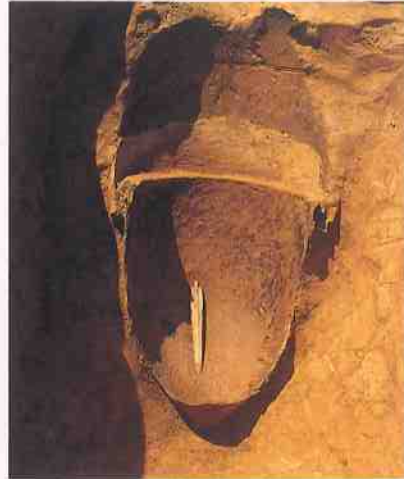
■郷ノ木遺跡出土小型仿製鏡
405 土壌墓の副葬品として出土しました。内行花文帯 (12弧) をもつ形式で銅質はやや悪いようです。面径9 cm

■エポカル武雄の歴史資料館ご利用案内

- 開館時間 AM 9:00～PM 5:00
休館日 月曜日 (こどもの日・文化の日を除く)
毎月第3木曜日・年末年始
その他の臨時休館日
- 観覧料 無料
交通 長崎自動車道
武雄北方インターから車で10分
JR武雄温泉駅から車で約5分



釈迦寺遺跡 しゃかじいせき



■釈迦寺遺跡 279 甕棺 (銅剣出土状況)
甕棺が主体の遺跡で、246 甕棺には細形銅戈、279 甕棺には細形銅剣と銅鉞が副葬されていました。



■釈迦寺遺跡出土青銅器
細形銅戈：全長 24.6 cm
細形銅剣：全長 32.2 cm
銅 鉞：全長 6.2 cm

茂手遺跡 もていせき



■茂手遺跡出土有鉤銅鉞
青銅製の腕輪で、楕円形で1つの鉤をもっています。この形は、ゴホウラ貝を縦切りにした腕輪を起源としています。



■茂手遺跡 702 建物跡
2間×1間で、桁行 4.4 m、梁行 3.8 m の高床倉庫の柱穴と考えられます。柱穴の一つから有鉤銅鉞が出土しました。

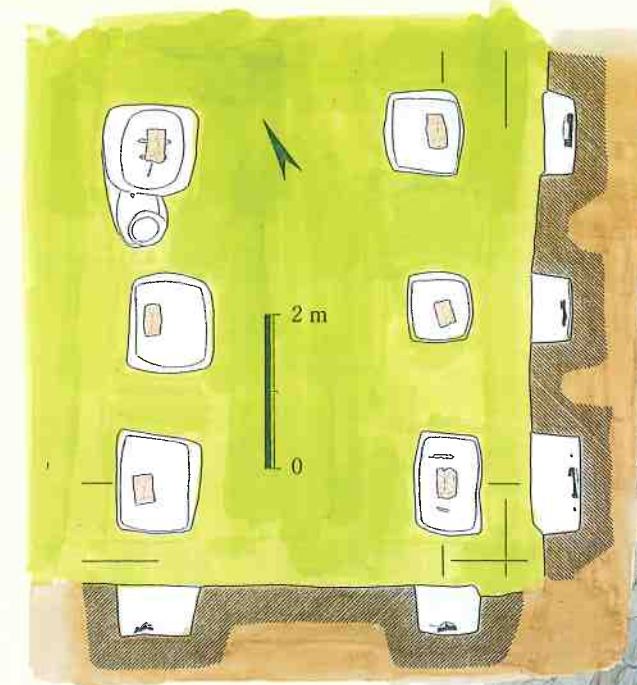
みやこ遺跡 みやこいせき



■みやこ遺跡 324 土坑遺物出土状況
高杯や透窓器台を中心とした土器が出土しました。



■みやこ遺跡出土品
舶載鏡片・鉄剣・鉄製素環頭刀
透窓器台は、広域交流を示すものです。



■茂手遺跡 702 建物跡実測図
軟弱地盤地帯に建てられた本建物には、柱の沈下を防ぐため、底に礎板と呼ばれるものを敷いていました。



▲弥生時代収穫の図